

1. 18 年 3 月期決算の概況

(1) 三井住友銀行（図表 1-1）

〔業務粗利益・経費〕

18 年 3 月期の業務粗利益は、投資信託の販売が好調に推移したこと等による役務取引利益の増加を主因として前年比 292 億円増益の 1 兆 5,521 億となり、1 兆 5,450 億円の計画を 71 億円上回る実績となりました。

経費につきましては、5,865 億円となり、計画を 85 億円下回りました。これは、人員構成の変革による人件費の削減が進んだこと等によるものであります。

〔業務純益〕

以上の結果、一般貸倒引当金繰入前の業務純益は前年比 251 億円増益の 9,656 億円となり、計画の 9,500 億円を 156 億円上回る実績となりました。

〔臨時損益その他・経常利益・特別損益〕

臨時損益に計上される不良債権処理損失額につきましては、1,065 億円となり、一般貸倒引当金に繰入いたしました 1,550 億円と、特別損益に計上いたしました償却債権取立益 306 億円を合算いたしました与信関係費用は、2,309 億円となりました。

また、株式等関係損益につきましては、堅調な株式相場環境の下、売却益を計上したことにより、255 億円の利益となりました。

以上の結果、経常利益は 7,209 億円と、6,100 億円の計画を 1,109 億円上回る実績となりました。

〔特別損益・当期利益〕

特別損益につきましては、動不動産処分による 49 億円の損失に前述の償却債権取立益等を合わせまして全体で 257 億円の利益となりました。

以上の結果、当期純利益は 5,195 億円と、3,500 億円の計画を 1,695 億円上回る実績となりました。

(2) 三井住友フィナンシャルグループ (図表 1-2)

18 年 3 月期連結決算は、連結経常利益が 9,636 億円となりました。連結純利益は 6,868 億円と、4,600 億円の当初見込みを 2,268 億円上回る実績となりました。これは、主として三井住友銀行の当期純利益が、計画を上回ったことによるものであります。

また、18 年 3 月末の連結自己資本比率は、12.39%となりました(図表 2)。

(3) 剰余金の推移

以上の結果、18 年 3 月期における三井住友フィナンシャルグループ及びその子会社（三井住友銀行、三井住友カード、三井住友銀リース、日本総合研究所）合算の剰余金につきましては、三井住友銀行の当期利益の上振れ、自己株式の処分に伴うその他資本剰余金の上振れを主因として、健全化計画を 3,316 億円上回る 2 兆 6,788 億円となりました。

＜剰余金の積み上がり状況＞

(億円)

	17/3 月期 実績	18/3 月期 計画	18/3 月期 実績
期末合算剰余金(注)	16,488	23,472	26,788
その他資本剰余金	8,985	12,293	13,869

(注) 三井住友フィナンシャルグループ、三井住友銀行、三井住友カード、三井住友銀リース、日本総合研究所の剰余金合計（三井住友カードは持分勘案後）

(4) 19 年 3 月期決算見込み

三井住友銀行の 19 年 3 月期決算は、業務純益(一般貸倒引当金繰入前)9,400 億円、当期純利益 4,600 億円を見込んでおります。また、三井住友フィナンシャルグループ(連結)といたしましても、連結経常利益 1 兆 100 億円、連結当期純利益 5,700 億円を見込んでおります。